

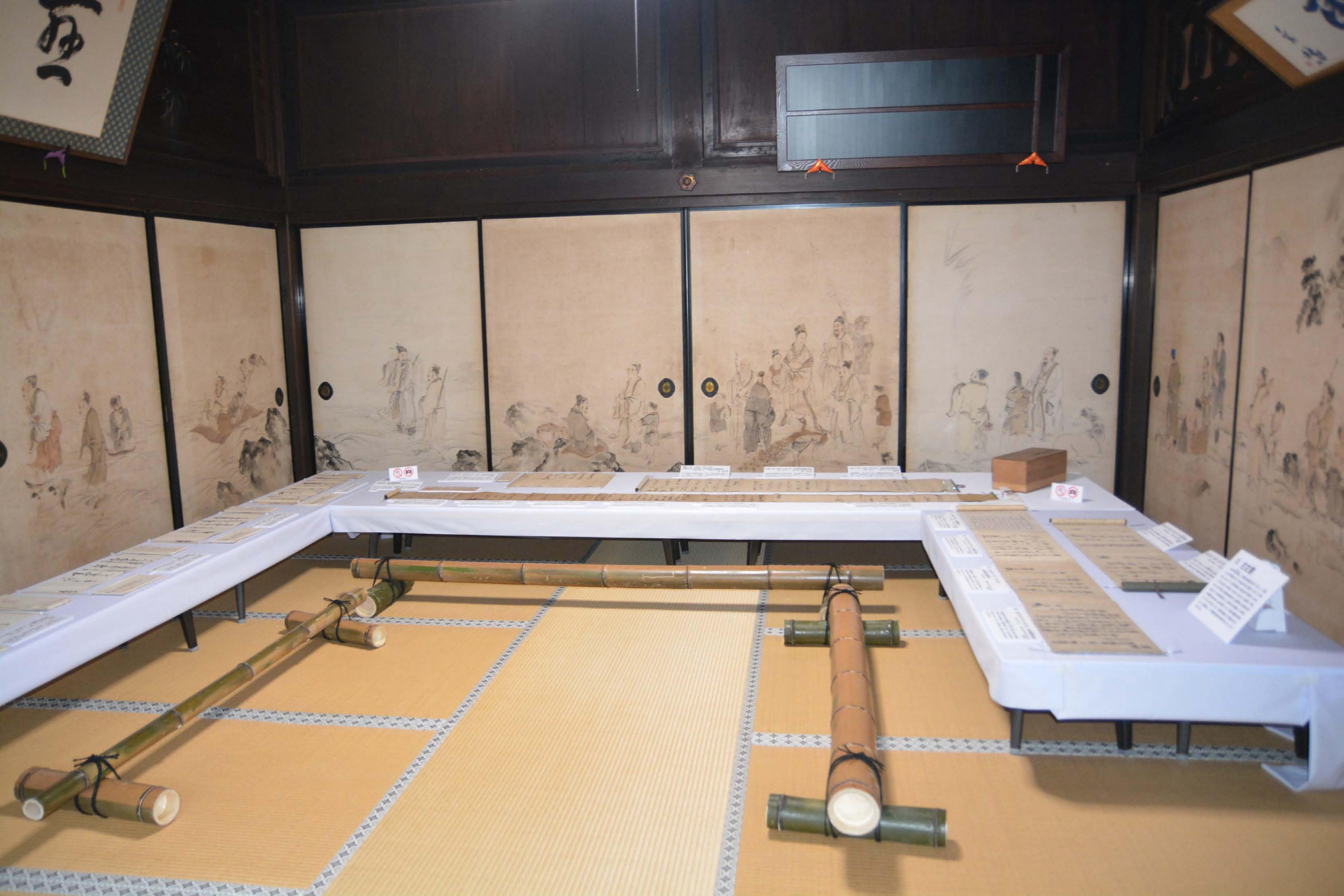


# 新嘉坡大



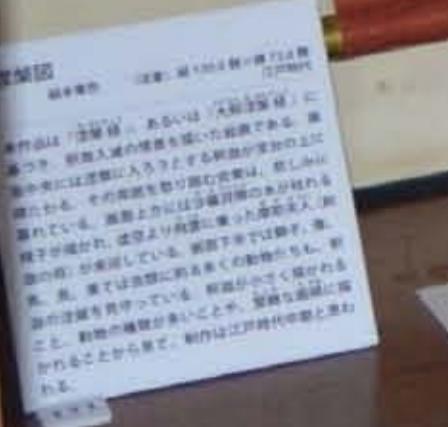






性空寺







VIII. 28-39



IX. 仁

仏画とは仏教経典の題材である、仏教經典の内容に基づく  
もの、或は、あるいは理法の本源とするために制作される  
もの等によれば、仏画は大きく(1)新説開祖、(2)  
舊説開祖(新説以外)、(3)佛教開祖、(4)淨土教開  
祖、(5)神仏習合開祖(舊説)、(6)真言(密教)の  
6種に分かれるという。木山寺所蔵の作品はこのうち(3)  
(4)に開祖する作品が多い。体認するとおり、その両者  
の要素を持つ作品の伝来することも大きな特徴であるだろ。

十三仏圖(釋迦文)  
田中義作(著) 1912年(明治45年)1月

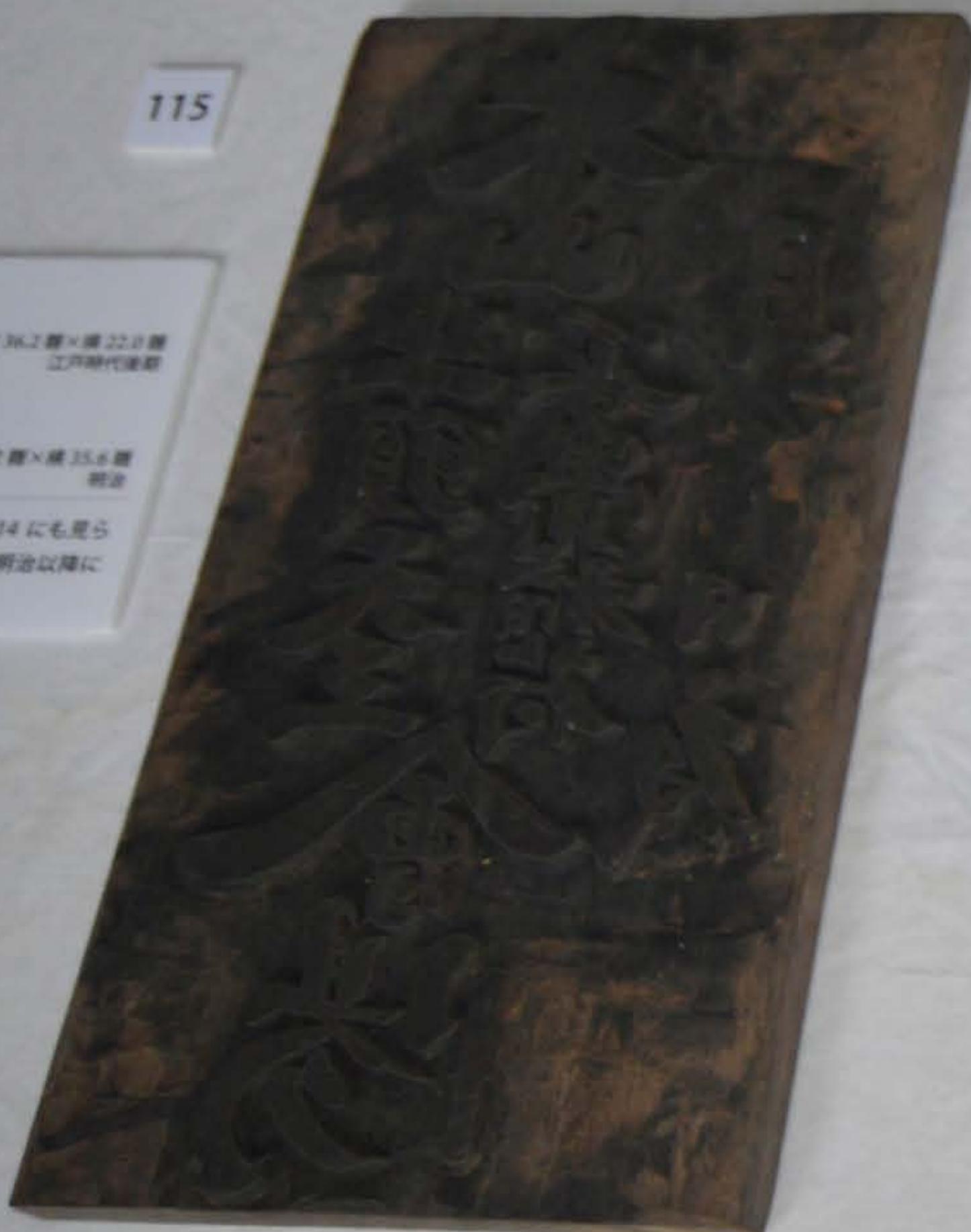
「新作映画は貴様の各種手稿、石  
井の手稿、日記物、論議に關する  
資料等の新作の制作と販売料金

木山  
感  
神  
院

114



115



116 ご てんおう ゼンカクイナリ  
牛頭天王／善覺稻荷

木版彫刻 (法量) 縦 33.6 横 22.7 横 (牛頭)  
縦 33.6 横 23.5 横 (善覺)  
江戸時代後期

天文 8 年 (1539) 尼子経久刊物 (展示 No.37) に  
「木山感神院」とある事から室町期から牛頭天王  
を祀っていた事は確からしい。一方、善覺稻荷は  
牛頭天王社の末社善覺大明神として江戸期に入っ  
てから確認される (展示 No.11)。展示品は宝珠と  
狐の間に善覺大明神、或いは牛頭天王をはめ込む  
様式で、牛頭と善覺が同格に扱われており、善覺  
信仰を強調したものと考えられる。



X. 版木



117 にちりんたいし  
日輪大師

木版彫刻 (法量) 縦 32.5 横 × 横 13.4 横  
江戸時代後期

日輪大師は高野山奥の院灯籠堂に舍利塔や諸神と  
ともに安置される真形の弘法大師像で、様々な尊  
格と習合して解釈されてきた。中でも御流神道で  
は「八十通印信」の中に取り入れるなど、主尊の  
一つとして重要視してきた。木山寺に日輪大師像  
が祀られ、版木まで作られている事は、あるいは  
御流神道の影響によるか。



118 ふっせつたいそうおうきょうけつほんきょう  
佛說大藏王 教 血盆 經

木版彫刻 (法量) 縦 12.0 横 45.2 横  
江戸時代後期

女人の出産や月経は穢れとみされ、不浄を及ぼす  
罪により地獄に墮ちるとされるが、この経を転読  
する事により、救済されると説く。所謂女人救済  
を目的とした血盆經信仰は、日本では室町期から  
広がりはじめ、江戸時代には全国各地にその影響  
が残る。「作州真島郡醫王山木山寺所藏」と刻字さ  
れていることから木山寺で使われていた事は確実  
で、木山寺と血盆經信仰の関係は今後検討すべき  
問題となろう。



